

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月31日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010年度～2012年度

課題番号：22360250

研究課題名（和文）

原風景ヒアリング法を用いた文化的景観における動的オーセンティシティの評価法

研究課題名（英文）

Evaluation of Dynamic Authenticity for cultural landscape with experienced landscape interview

研究代表者

神吉 紀世子 (KANKI KIYOKO)

京都大学・工学研究科・教授

研究者番号：70243061

研究成果の概要（和文）：本研究は、文化的景観の保全に際して、地域の環境や空間構成の特徴を受け継ぐかたちでの変化を許容しつつ景観の本来の価値を継承発展するあり方を見出すことをめざしたものである。変化を許容しつつも守られる真実性を「動的オーセンティシティ（Dynamic Authenticity）」と定義し、事例地での「原風景ヒアリング法」を用いた調査を通じて、その真実性の捉え方と景観マネジメントのあり方をの主要論点を描出したものである。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to show the ways of cultural landscape conservation not with the regulation of physical elements of the landscape but with the sustaining of valuable environmental and spatial characters through the transformable physical situations. Here we set up the idea ‘dynamic authenticity’ and implemented several case areas to find main issues for such authenticity and landscape management with ‘experienced landscape interview’ survey method.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2012年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
年度			
総計	6,100,000	1,830,000	7,930,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 都市計画・建築計画

キーワード：文化的景観，オーセンティシティ，まちづくり主体，データベース，原風景ヒアリング法

## 1. 研究開始当初の背景

景観法の施行後多くの自治体で景観計画制度の導入がみられ、建築物の形態・意匠の基準などの手法の導入が進んできている。その一方、景観保全とはある姿を固定的に維持するのではなく、その地域がもつ特徴や履歴を受け継ぐ方向で進化することを想定すべきであるという議論がある。しかし、こうした変化を許容する考え方では、伝統にそぐわ

ない変化を回避できず景観破壊につながる恐れもある。このような議論においては、基準によって景観の構成要素の形態・意匠をマネジメントの対象とするだけでなく、変化をどのように評価するかという「価値観や考え方」をマネジメントの対象とする必要が生じる。とりわけ「文化的景観」は、時代とともに変化が生じることが不可避である生活・生業と自然の関係を扱う景観であること

から、変化が真実性を損なうのではなく進化させる方向であるかどうかを捉えマネジメントに取り組むことが重要となる。筆者らは、変化しつつも継承される固定的ではない真実性を「動的オーセンティシティ」として概念化し、その考え方に基づいた文化的景観保全の在り方を示したいと考えていた。

## 2. 研究の目的

以上の問題意識から、文化的景観の保全に取り組んでいる事例地を対象に研究することとした。その地域の景観が形成され受け継がれてきた履歴に関する口述を収集し地域履歴の一種のデータベースにすることに重点をおく原風景ヒアリング法を用いて景観形成過程におけるそれまであまり語られなかった「価値観や考え方」を顕在化することに取り組む。さらに、現在および将来の変化に対する評価について地域のまちづくり主体とのディスカッションを通じて抽出する。これらの事例研究をもちよった研究集会を通じ、動的オーセンティシティの捉え方と景観マネジメントのあり方の関係についての考察を行うこととした。

## 3. 研究の方法

事例地としては筆者らが以前より地域主体との協力関係をもち原風景ヒアリングの実施実績・データ蓄積等がある国内外の複数地を選んだ。既存調査の結果も活用しつつ地元主体と協力した学習会合を開催し調査研究を行った。さらに、複数事例を通じた議論は、日本建築学会農村計画委員会農山漁村文化景観小委員会との協力による研究集会も活用し議論を進めた。次章以下では、事例地のうちボロブドゥール寺院周辺農村地域（インドネシア、中部ジャワ）、熊野参詣道沿道・近露地区（和歌山県、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」バッファゾーン）、いなみ野の溜池群（兵庫県、元・文化的景観モデル地区）の3事例をとりあげて記載する。

## 4. 研究成果

### (1) ボロブドゥール寺院周辺農村

仏教寺院遺跡ボロブドゥール寺院の周辺には寺院を中心とした同心円状の緩衝地帯構想が用いられてきたがこれは実際に周辺地域に展開する農村地域の実情にあわない。一方、周辺農村地域のコミュニティや非営利組織ではこの10年ほど、寺院遺跡へのマス・ツーリズムの集中や商業開発問題等に対する問題意識をもつようになり、農村地域の景観保全、および、寺院遺跡の観光化を助長することにもつながる農村の生業衰退を防ぎ、持続性ある集落活動を促すことに取り組むようになっている。本事例は、ボロブドゥール地域の農村集落居住者・関係主体のもつ景

観形成過程における「価値観や考え方」を顕在化することによって、実際に寺院遺跡と不可分の広域の文化的景観の真実性の評価につながる事例と考えられる事例であった。

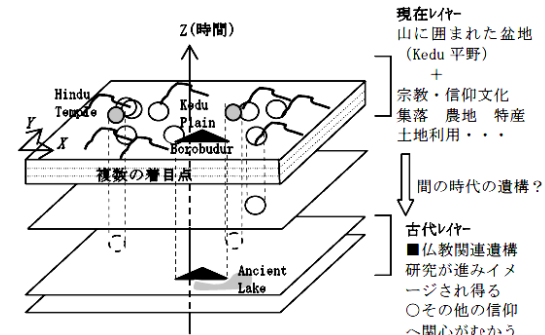


図1 ボロブドゥールの文化的景観スキーム (簡易版)



図2 居住者が指摘する重要な集落景観  
 ①農村観光に用いられる andong (馬車) ② Bakalan Hill からのボロブドゥール寺院遺跡の眺望 ③ 農村集落に残る伝統的な民家 ④ Art Performance スペース ⑤ 竹の1種の材料で各家庭で作られるクラフト ⑥ 観光客がクラフト制作を体験する様子

現地で複数回開催したフィールドスクールおよび調査から、まず、3000m級も含む5峰の山々と Menoreh 山地に囲まれた Kedu 平野を一つのまとまりとする地域認識が顕在化した。ボロブドゥール寺院はこの平野の南東部分から盆地外へと流れだす Progo 川のほとりに位置するとして相対的に認識される。山地・山麓にはヒンドゥー教遺跡や、住民の現代生活文化としてのトレッキングコースや巨岩の名所等がある。ボロブドゥール寺院はかつて湖に浮かぶようであったという伝承があり、近年の地質学分野の研究で実際に湖があった可能性も指摘されていることも話題になる。この認識の中でボロブドゥール寺院遺跡は、盆地の景観の中に得られる重要な遠望対象として居住者に（イスラム教徒が大半をしめるものの）親しまれている。（図1）この広域スケールのまとまりのうちに居住者各人の集落が位置し、集落内景観に関しては、近年の地域づくりの中で見直しが進んでいる伝統産業、集落環境にあわせて近年導入した特産品生産を営む集落構造が強調された（図2）。また、一部の集落で主体的に取り組まれている農村観光活動の影響で集落内に少数ではあるが来訪者むけの空間改変（東屋や手すりの設置等）が現れているが、居住者からは地元で日常使われる材料・手作り設置・居住者自身の催事に活用すること等

が変化への配慮・マネージメントとして表出していた。変化の規模のマネージメントには非営利団体等の助言も作用し、居住者と非営利団体でカバーしあうことで真実性を保とうとするしくみがみられた。

## (2) 熊野参詣道沿道・近露地区

和歌山県田辺市中辺路町に位置する近露地区は、熊野参詣道中辺路が通る高所盆地で、かつて主要な宿場でもあった農村集落である。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の登録の直後頃から参詣道だけでなく集落域全体の景観の再評価作業を行うようになり、集落全体を会場とした華道作品の制作展示を主体としたアートイベントを行うことも知られている。



図3 近露地区で開催される華道作品の制作展示イベントでは、華材に地域の材料が調達され使われる

まず得られたのは、集落域の居住エリアの外側に広がる山林内なども含め各所にある樹林、古木・枯木・見つけにくい苔等の地衣類等を含む植生分布、水系、土質・地質といった非常に詳細な地域生態系が把握されていることであり、知識として把握されているだけではなく生活の中での様々な活用アイデアと直結している点である。例えば上述のアートイベントのような即興的なアイデアによる創作活動においてもこうした居住者のもつ景観認識の中で連想された材料が、素早く調達され用いられている(図3)。このとき、貴重な植生等は使わないが枯木は使うなどの判断も実地になされている。次に得られたのは自らの居住空間に周囲をとりまく地域生態系の認識と呼応した空間認知や意匠がとりいれられている点である。これには室内のインテリア、点景的な注視対象をそれを取りまく広い空間と生態学的特徴とともに認知する傾向、といった様々な現れ方がある。集落内の民家群に着目する際には、昭和40年代頃よりよく郷土史研究が取り組まれてきた履歴もあり、建築としてだけでなく、旧居住者・現居住者のライフストーリーがよく伝えられており、そのストーリーの場としての遺構に対する評価が重視されている。こ

のように集落域全体について、極めて詳細に意味が捉えられていることが特徴で、このことが変化への評価に影響する。例えば集落内でのサクラの植樹といった新たな要素の付加(変化)に対してもその位置決めは極めて慎重に行われる。

## (3) いなみ野の溜池群

兵庫県の「いなみ野」と称される東播磨地域は気候と台地状の地形条件により、ため池を中心とした水利用が不可欠で、ため池密集地域として知られている。現在も約600のため池が存在している。今回の事例研究では、この多数のため池がどのように農地等に連結され地域の土地利用を決定しているかが当該地域の文化的景観を形成していると考えて調査を行った。

水の利用形態と立地条件から、集落は3類型が得られる。山際立地の集落では谷地を利用し水を堰止めた谷池が多く、そこに現在も農村コミュニティが維持されている。台地上の集落では、段丘状の地形を利用し谷池と皿池の中間的なため池が多く、2~3方向に土手が築かれる。江戸時代の開拓村が多い。台地南西側の播磨灘に面する沿岸部集落は、水系の末端にある集落群で、皿池形式の浅いため池が多く、現在では市街化が進んでいる。調査によって得られたのは、まず、もともと水源の水量が限られている条件下で形成された配水と水利用の仕組みが極めて複雑で、地上で視認するだけでは見て取ることができない点である。乏しい水量を集めるため長い歴史の中でつくられ続けてきたため池が、高密度に分布する景観があり、あるいは、上流からの水を余すところ無く水路を利用して集め、下流に配水する仕組みがつくられている(図4)。この集水の努力を積み重ねてきた歴史は、同時に水争いの歴史でもあり、いくつかの集落で共有する水源・水路・ため池では、権利に応じて正確に水を分けるための分水工がつくられた。水路は地形に抗い、幾度も立体交差を繰り返し、水路橋やマンボ(地下水路)、サイフォン橋といった遺構が残されている。「血の水だ。」とも言われるほど、水を求めて苦勞してきた歴史を認識し、緻密に形成された水系の全体を整理しなおして把握するとはじめて、市街化した地域も入り組んだいなみ野台地の土地利用構成と集落分布のもつシステムが認識できる(図5)。さらに得られたのは、ため池のもつ自然地としての特徴で、渡り鳥が数多く飛来すること、様々な水生植物の生育、ため池で取れるレンコンの美味さ等で、ジュンサイやハスの実なども食料として利用されていた。フトイは、波による堤体の浸食を防ぐ役割を担っていた。人が土手の草刈りや水の集配水の管理を行うことで、豊かな生物環境が維持され、そ



れを人々が食料として利用するといった、人と自然が一体となった循環の仕組みが作り出した景観であることが再認識される。

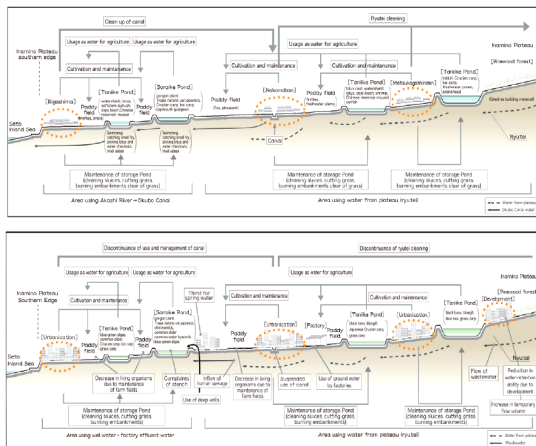


図4 ため池群と配水システムと農地・集落分布 (1950年(上)と2008年(下)の変化)

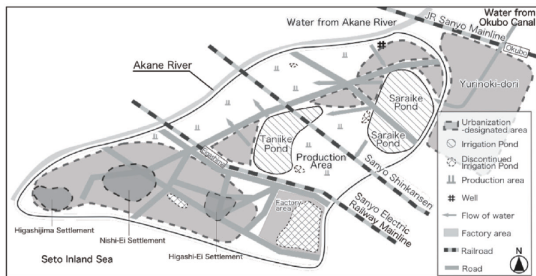


図5 視認は困難だが市街地・工業地域のまじる中でも存続しているため池群と配水システム

事例地はため池の改廃や農地の宅地化・工業用地化、農業者の減少や高齢化、水質の悪化、外来動植物の増加など、実際に様々な変化が進行中である。このため池群を点在する池としてだけでなく、上述のような複雑で作りこまれた配水システムとして全体像を再評価し、同時に、生活との関わりが深い水環境の存続に価値を見出すことが文化的景観としての本来的価値を市街化の中でも存続することにつながるという意見が示された(図5)。その認識は、現在当地で取り組まれている、農業用水系の管理者だけではなく、市街地の住民も協力してため池を守り育てる活動とも整合するもので、水利組合、自治会、非農家も参加した「ため池協議会」を地域ごとに設立し保全に取り組んでいる。

#### (4) 事例地での議論を総合したまとめの論点

以上の事例地での議論、および、その他にも調査を行った事例地での成果を総合し、原風景ヒアリング法の意義および動的オーセンティシティの概念と評価法、についての考察を研究集会等を通じて行った。以下に、その論点をまとめた。

#### 1) 原風景ヒアリング法の意義の再考察 原風景ヒアリング法とは、風景に関わる人

(例えば、その暮らし・営みが風景に現れる生活者その人、その暮らしを支える技術や材料に関わる人、風景の読み方を知り伝える取り組みの当事者、地域の生活を豊かにする試みの担い手など)と風景との関係における特性と課題を、現場でのコミュニケーション、一緒に作業を行うということ、保全プロセスへ考え方についての対話や実際の関与等を通じて捉えるものだと、考えるべきだと思われる。従来、景観形成過程を人の履歴から明らかにする手法として定義してきたが、調査者が口述を集めるというような一方的な調査ではなく、語り手も聞き手も共に発見する、すなわちオーセンティシティの認識が双方によって再構築されていくことを含む、調査および風景の再評価作業を総合する手法ともみることができる。この点は、橋本裕之『獅子頭の角 フィールドワークにおけるオーラリティの効用と限界の技法』(日本オラトリ研究 2008. 10) の議論にも通じる。

#### 2) 動的オーセンティシティの概念

暮らしや技術や材料の一部が変化しても変わらない(普遍的)な風景構造の価値を意味するものであることは確実である。事例地での議論からは、次のような論点を示された。

- ・一見では見えない「しくみ」(地形の意味や読み方・水のしくみ・地域生態系の根付き方の認識・風の読み方・建て方・町割)
- ・変化する日常と場所の普遍性(場所の歴史や意味、場所に関わった人々のライフストーリー、生活空間における意味の重層性などが普遍性に内在すること)
- ・担い手や担い方が変化しても維持される表現型(現代から再発見する過去に花開いた文化の足跡と遺構等)

#### 3) 動的オーセンティシティの評価法

動的オーセンティシティの評価とは、変化を遂げる評価対象をその変化にそって動的に評価することになる。その考え方としては、

- ・自然の客体化(対象化)ではなく、自然と一体の環境として人の暮らし(主体化)
- ・場所の記録と伝え方 伝える力(継承力)と伝え方にも真実性の根拠を与える
- ・風景に関わる担い手の継承 風景を守り伝え育てる担い手の育成支援のしくみにも真実性の根拠を与える
- ・普遍的価値(風景の成り立ち)の持続 地形や自然に対峙し克服するのではなく、折り合う工夫と改良の知恵による
- ・折り合って地域環境を構成する人と風土との関係

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計18件)

#### ① 神吉紀世子, Field School という方法と

Cultural Landscape 保全－International Borobudur Field School が果たした役割－, Design シンポジウム 2012 講演論文集, 審査有, pp. 537-542, 2012

② Aleksandra KRSTIKJ, 日向進, 小浦久子, Study on Typology of Shops and Their Transformations in Skopije's Old Bazaar ;Based on Analysis of Vernacular Units' Form and Design Elements, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, No. 678, pp. 1881-1886, 2012

③ 住友妙子, 下崎愛子, 工藤和美, 兵庫県但馬地域の集落景観に関する研究, その 1 地形からみた集落景観特性, その 2 豊岡市日高町十戸集落の集落空間構成と水利用, 日本建築学会大会(東海)学術講演梗概集, pp. 29-32, 査読無, 2012

④ 神吉紀世子, 熊野参詣道と 2011 年台風 12 号(和歌山県・紀南エリア)－台風災害による地形変化と文化的景観－, 2012 年度日本建築学会大会農村計画部門研究協議会資料集, pp. 71-74, 2012

⑤ 中島直人, 神吉紀世子, 遺産と文脈の創造的前進－まちなみの新しさと古さを巡る問題－, 日本建築学会総合論文誌第 10 号, pp. 51-54, 2012.

⑤ ティティン・ファティマ, 神吉紀世子, EVALUATION OF RURAL TOURISM INITIATIVES IN BOROBUDUR SUB-DISTRICT, INDONESIA -A study on rural tourism activities for cultural landscape conservation-, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, No. 673, 2012, pp. 563-572

⑥ 神吉紀世子, 農村における文化的な景観の保全と創造 農村計画学会誌 Vol. 30 No. 3, pp. 478-481, 2011

⑦ 國居郁子, 工藤和美, 山崎寿一, 地場材料玄武岩に着目した集落景観構成に関する一考察 -兵庫県豊岡市赤石集落を事例として-, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, No. 665, 2011, pp. 1241-1249

⑧ 穂苅耕介, 神吉紀世子, 高田光雄, 地方都市の歴史的町並みを活かしたまちづくりにおける建設業者の役割 -和歌山県有田郡湯浅町を事例として-, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, No. 667, 2011, pp. 1631-1639

⑨ 神吉紀世子, 中世と近現代の共存 -旧

日根荘大木・土丸の文化的景観をどう計画にのせるか(大阪府泉佐野市) -, 日本建築学会大会研究協議会資料(農村計画部門), 査読無, 2011, pp. 15-16

⑩ 小浦久子, 貞山運河と風景再生, 日本建築学会大会研究協議会資料(農村計画部門), 査読無, 2011, pp. 35-38

⑪ 工藤和美, 見えない仕組みをどう伝えるか いなみ野ため池群の文化的景観, 日本建築学会大会研究協議会資料(農村計画部門), 査読無, 2011, pp. 13-14

⑫ 梶並直貴, 高山真也, 工藤和美, 高砂市魚橋村における集落空間構成-水利用と採石の空間に着目して-, 2011 年度日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, 査読無,

⑬ 小浦久子, 文化的景観の空間作法一場所の読み方とルールの意味を伝える計画, 奈良文化財研究所研究報告第 7 巻, 査読無, 2011, pp. 69-75

⑭ 國居郁子, 工藤和美, 山崎寿一, 兵庫県豊岡市における地場材料玄武岩に着目した集落景観構成, 日本建築学会住宅系研究報告会論文集, 査読有, 第 5 巻, 2010, pp. 115-122

⑮ 國居郁子, 工藤和美, 山崎寿一, The relations of the village landscape and environmental management with local material, 第 8 回アジアの建築交流国際シンポジウム, 査読有, 2010, pp. 393-398

⑯ 神吉紀世子, Cultural Landscape and Community Development (地域づくりの視点からみた文化的景観の保全), 建築雑誌(日本建築学会) 9 月号, 査読無, Vol. 125 No. 1608, 2010, p. 21

⑰ 宮川智子, 和歌山県かつらぎ町平集落における集落景観の変遷, 2010 年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集 E-2, 査読無, 2010, pp. 603-606

⑱ 杉中浩之, 小浦久子, 熊野古道沿道集落「近露」における生活風景の構造, 2010 年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集 E-2, 査読無, 2010, pp. 607-610

[学会発表] (計 9 件)

① 工藤和美, 豊かな自然と人々がおりなす集落景観, 豊岡市景観フォーラム(招待講演), 兵庫県立淡路景観園芸学校, 2012 年 11 月 25 日

② Kiyoko Kanki、Cultural Landscape and community development (Web Conference)、6th International Field School on Borobudur Saujana Heritage (招待講演)、(Jogjakarta, Borobudur、Indonesia)、2012. 7.2-7.8

③ Kiyoko Kanki、Evolutive Conservation of Cultural Landscape、6th International Field School on Borobudur Saujana Heritage (招待講演)、(Jogjakarta, Borobudur、Indonesia)、2012. 7.2-7.8

④ Titin Fatimah、Kiyoko Kanki、Village tour as an alternative rural tourism towards sustainable cultural landscape conservation in the surrounding of Borobudur World Heritage Site, Indonesia, International Conference Tourist Routes and Cultural Itineraries “From Memory to Development” , (Quebec City (Canada)) 2012. 6.13-15

⑤ Siwaporn Klinmarai、Kiyoko Kanki、Impact of residential landform and land use transformation in greater area of Bangkok, Thailand、11th International Congress of Asian Planning Schools Association、東京大学(東京)、2011/9/19-21

⑥ Siwaporn Klinmalai、神吉紀世子、Characteristic of Sustainable Location for Townhouse Development in Bangkok and Greater Metropolitan Region, Thailand、SPSD2011 (International Conference 2011 on Spatial Planning and Sustainable development)、金沢大学(金沢市)、2011/7/29-31

⑦ Kiyoko Kanki、Bürgerbeteiligung, Grundversorgung und Regionalentwicklung im ländlichen Raum Japans、Jahre Freundschaft Deutschland-JapanSymposium „Ländliche Entwicklung - aktuelle Herausforderungen im Vergleich (招待講演)、Düsseldorf, Deutschland、2011/5/23-24

⑧ 工藤和美、PRESERVATION PROBLEM OF IRRIGATION PONDS IN URBAN DISTRICT、The 7th the Pacific Rim Community Design Network Conference in Awajishima、兵庫県立淡路景観園芸学校、2010年9月12日

⑨ 神吉紀世子、農村の文化的景観 ～景観継承の担い手は誰か～、総合人間学会第5回研究大会シンポジウム、同志社大学新町校

地・臨光館、2010年6月5日

〔図書〕(計4件)

① Siwaporn Klimalai、Kiyoko Kanki 他、Characteristic of Sustainable Location for Townhouse Development in Bangkok and Greater Metropolitan Area, Thailand、Spatial Planning and Sustainable Development -Approaches for Achieving Sustainable Urban Form in Asian Cities-、Springer、483pp. 2013

② 神吉紀世子・小浦久子・工藤和美・宮川智子他、日本建築学会編「未来の景を育てる挑戦ー地域づくりと文化的景観の保全」、技報堂出版、201pp. 2011

③ 神吉紀世子、農村の文化的景観ー景観継承の担い手は誰かー、総合人間学会編「総合人間学5 人間にとっての都市と農村」、学文社、pp.33-43、2011

④ 小浦久子、人口減少時代の土地利用計画第1部第3章「景観計画による都市周辺部における土地利用管理の総合化」、学芸出版社、170pp. 2010

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

神吉 紀世子 (KANKI KIYOKO)  
京都大学・工学研究科・教授  
研究者番号：70243061

### (2) 研究分担者

小浦 久子 (KOURA HISAKO)  
大阪大学・工学研究科・准教授  
研究者番号：30243174  
工藤 和美 (KIDOH KAZUMI)  
明石工業高等専門学校・建築学科・准教授  
研究者番号：40311055  
宮川 智子 (MIYAGAWA TOMOKO)  
和歌山大学・システム工学部・准教授  
研究者番号：30351240

### (3) 連携研究者

ティティン ファティマ (TITIN FATIMAH)  
Tarumanagara University・(インドネシア・ジャカルタ)